

## 頭部外傷で入院された患者さんへ

成田赤十字病院では下記の研究を行っています。

この研究は、成田赤十字病院倫理委員会の審査を受け、院長の許可を得て行っているものです。

### 1. 研究課題名

「Geriatric trauma outcome scoreによる頭部外傷の予後予測についての研究」

### 2. 研究の対象となる方

2019年1月から2023年8月まで、当院に頭部外傷で入院した65歳以上の方。

### 3. 研究の目的

日本では高齢化が進行しており、高齢者の特徴に注目して疾患を理解することやどのような治療を行うことが最適かを明らかにする必要があります。高齢者は身体機能の低下から外傷を来しやすく、また同程度の損傷でも若年者より重症化しやすいことが知られています。高齢者外傷での損傷部位としては頭部外傷が多いですが、頭部外傷は救命しえたとしても後遺症によりADL低下を来しうる重篤な疾患です。

どのような治療を行うか選択する上では予後を予測することが重要です。高齢者外傷においては、年齢による影響を加味したスコアリングシステムとして、年齢、外傷による身体損傷の程度、赤血球液を輸血したか否か、の3項目からなるGeriatric trauma outcome score (GTOS)が開発され、救命しえたか否かをよく予測すると報告されています。しかし患者さんにとっては、命が助かったかどうかだけでなく、後遺症をどの程度残したかという神経学的予後も非常に重要な指標です。

これまで高齢者頭部外傷の神経学的予後予測についてはほとんど報告がないため、今回私たちはGTOSを神経学的予後予測に応用できるのではないかと考え、検証することにしました。

### 4. 研究の方法

この研究では電子カルテを用いて、入院時の記録を抽出します。抽出するデータは、年齢、性別、発生状況、既往歴、外傷の病名、救命できたか否か、退院時の後遺症の程度といった情報です。

これらのデータからGTOSを算出し、退院時の後遺症の程度とGTOSが関連するのか、また後遺症の程度を予測できるのかを統計解析し検証します。

### 5. 研究期間

成田赤十字病院 倫理委員会承認日～2025年3月31日

### 6. 研究に用いる試料・情報の項目

電子カルテより、後方視的に以下の情報を抽出し統計解析を行います。

年齢、性別、入院期間、入院科、入院病棟、病名、抗血小板薬や抗凝固薬の内服、受傷機転、退院先、治療内容

## 7. 院外への試料・情報の提供

本研究は当院のみで行われる研究のため、当院外へ試料および情報の提供はありません。

## 8. 個人情報の保護について

この研究にご参加いただいた場合、研究を通じて得られた患者さんの記録が学術雑誌や学会で発表されることがありますが、研究を通じて得られた患者さんの記録は、個人情報保護のため匿名化され、個人が特定できない形式により管理されます。

## 9. 研究への不参加の自由について

情報がこの研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方から不参加のお申し出があった場合は研究対象としません。不参加のご判断をされた場合は下記の「連絡先」までお申出ください。（不参加のお申し出があった場合でも、今後の治療で決して不利益を受けることはありません。）

但し、学会や論文で発表した後など、不参加の意思を表明した時期によっては情報の削除ができない場合もありますのでご理解ください。

## 10. 研究組織

### 【研究組織】

研究代表者、責任者：成田赤十字病院 救急・集中治療科 齋藤大輝  
研究協力者：成田赤十字病院 救急・集中治療科 林 洋輔  
山城麻奈  
飯澤勇太

### 【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

成田赤十字病院 院長 青墳 信之

## 11. 本研究に係る資金ならびに利益相反について

本研究により予想される利害の衝突はないと考えています。本研究における開示すべき利益相反はありません。

## 12. 連絡先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

成田赤十字病院

研究責任者：救急・集中治療科 齋藤大輝

住 所：〒286-8523 千葉県成田市飯田町90番地1

電話 番号：0476-22-2311（代）

以上